



こもれびの樹木 (17)

9月に発生した台風15号は東海地方に上陸し関東地方を直撃しました、こもれびの森の樹木にもかなりの被害があり、活動地では主にコナラが倒木しました。

特に被害の大きかったのが東大沼地区の南の住宅地近辺で、主にサワラの被害が多く、他にコナラ、ヤマザクラの大樹が倒木し、根こそぎに倒れたり、幹の途中から裂けて折れています。

この東大沼地区に**ミズメ**が2本植生しています。1本はエリアの中央付近にあり、胸高の幹周りは183cm、高さは目測で約23mあり、2本目は1本目の南に植生し、幹周り143cm、高さは約18mです。

ミズメ (水芽) はカバノキ科カバノキ属の落葉高木ですが、**ヨグソミネバリ (夜糞峰榛)** という大変気の毒な別名があります。樹皮は灰または暗褐色で滑らか、横に皮目があり、サクラの樹皮に似ていて老木になると、裂けて剥がれ落ちます。葉は卵形で先端がとがり葉の基部はハート形で葉脈ははっきりしています。花は雄花と雌花が異なる雌雄異花、雄花序は垂れ下がり雌花序は直立し短い。果実は長さ2cmほどの楕円形で枝先につき、直立し熟すと翼のある種子が飛散します。



東大沼地区のミズメ



ミズメの木肌

名前の由来は樹皮を傷つけると水のような樹液が出ることから。また、別名の**ヨグソミネバリ**は枝を折るとサロメチールのにおいがするからとの説もありますが他にもいろいろの説があるようです。

さらに**アズサ (梓)**とも**ミズメザクラ (水芽桜)**とも云われています。アズサは弓材として利用され古くは梓弓として有名です。そのほか材は緻密でかたく建築材、家具、器具材に利用されます。

上の写真に示している樹高の高いほうの樹姿はみごとで周りの木を圧倒し、11月18日に観察したときにはきれいに黄葉していました。(林)



ミズメの実

木もれびの森の野鳥たち

12月

<冬鳥もやってきて>

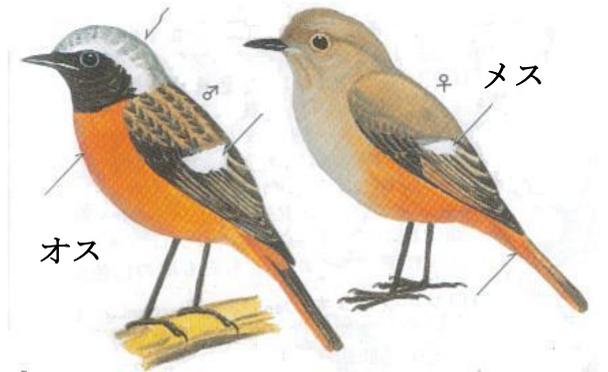
夏鳥の立ち寄りも終わり、北の国から渡ってくる冬鳥の頼りも届く季節です。

木もれびの森では、10月29日に**ジョウビタキ**が姿を見せました。栗畑の木のでっぺんでヒッヒッ、カッカカッと頭を下げ、細かく尾を振って鳴いていました。テレビアンテナなど目立つところに止まるの

で、鳴き声を頼りに探すことができます。11月半ば頃からは**ツグミ**がクイツ、クイツと鳴いて、北国からの到着を知らせてくれました。

エゴノキの実を好物にしている**ヤマガラ**は、枯れ草の中にすっかり落ちてしまったコーヒー豆そっくりの実を、探し出してはくわえて枝に戻り、足で押さえくちばしで割って食べていました。**モズ**はカマキリを捕らえたらしく腹の部分を足で押さえ、タカのようにくちばしでお食事を。アオキやササが茂るやぶの中からは、**ウグイス・コジュケイ・シロハラ**の声をよく聞くようになりました。

雪の季節を迎え、食べ物を求めてさらに冬鳥たちがやってくるでしょう。多様な実をつける木々が、そして土壤の生き物が豊かであるからこそなのですね。(瀬尾)



ジョウビタキ

冬に舞う冬尺蛾(フユシャクガ)

森の木々が葉を落とす頃、ひらひらと飛び出す昆虫を知っていますか？ 今年10月26日の活動日に見つけました。

多くの昆虫は、寒い冬をさけ、いろいろな形で休眠に入るなか繁殖活動の時期を冬に選んだ不思議な蛾の仲間です。**フユシャクガ**の生息地として幼虫(緑色のシャクトリムシ)の餌となるクヌギ・コナラの二次林が良く知られ相模原の木もれびの森は、マニアにとって知る人ぞ知る有名な森なのです。14から15種が記録されています。

なぜ、晩秋の頃に羽化するようになったのでしょうか？ 一つには、幼虫の餌が豊富な初夏に合わせて、冬の時期に羽化し成虫になるように進化してきたことが考えられます。

幼虫の餌として、柔らかな葉が必要で幼虫は2週間程度で土の中に潜ってまゆを作り、葉が硬くなる夏は蛹となつてすごします。

フユシャクガ類が羽化するのは、平地では11月下旬から3月上旬の間と言われています。又、天敵の鳥や大型昆虫が少なく繁殖活動を活発に行うことができます。

雌の翅は、欠けるか縮小して飛ばません。日没になると幹を登り始め、2m位の所で、尾をあげてフェロモンを出して雄を誘引します。

昼間、雄はたくさん見かけますが、なかなか雌に出会う事は難しく、雌に出会いたい時は夕暮れから森に入り観察をしながら雌を探しましょう。(高橋)



オス



メス